

三

次の文章は、清水晴木『風と共に咲きぬ』の一部です。「私」は水産加工工場で働きながら、役者をしています。しかし先日、唯一出演しているドラマの打ち切りをチーフプロデューサーから伝えられ、工場で刺身の上にタンポポ（食用菊）を載せる作業をしながらも、そのことが頭から離れません。以下はその後に続く場面です。文章を読み、後の問いに答えなさい（設問の都合上、本文を一部省略・変更しています）。

※著作権の関係により掲載はできません（本文約二〇〇〇字）。

問1 〰〰〰部 a「ロボウ」、b「拙い」、c「トツゼン」、d「静寂」のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 〰〰〰部（1）「踏んだり蹴ったり」と同じ意味のことわざを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア 傷口に塩を塗る イ 寝耳に水 ウ 百害あつて一利無し エ 晴天の霹靂^{へきれき}

問3 〰〰〰部（2）「私は、籠の中に……泣いている気がしたから。」に用いられている表現技法を次のア～オから二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア 体言止め イ 省略法 ウ 対句法 エ 擬人法 オ 倒置法

問4 [A] [B] に入る語句として最も適切なものを、次のア～オから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア とはいえ イ なぜなら ウ やはり エ それに オ だから

問5 [C] [D] にあてはまる言葉を、文中から [C] は五字以内、[D] は十字以内でそれぞれ抜き出さない。

問6 〰〰〰部①・③・④「……」に込められた主人公の心情として最も適切なものを、次のア～カから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア 激怒 イ 嫌悪 ウ 憧憬 エ 崇拜 オ 辛苦 カ 落胆

問7 〰〰〰部②「いつまでもずっと脇役のままの刺身の上のタンポポだ。」とあるが、その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア タンポポは人に食べられることはなく、刺身のように食事の主役になる機会ほとんどないということ。
イ 主人公は工場の仕事でさえタンポポを添えるという地味な仕事をしているので、主役には決してなれないということ。
ウ 主人公はどんな役でもこなせる芸達者な役者ではなく、刺身の上のタンポポのようなしがない役者だということ。
エ 刺身の上のタンポポは誰からも愛されず、むしろゴミになる邪魔者であり、価値のないものだということ。

問8 次のア～エは、この小説を読んだ生徒の考察です。「私」に関する記述として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」は長年この仕事に就いているので、周りの人よりも仕事を理解しているという自負を強く持っている。そのため、「私」の言葉からは自分が重要視されない今の現状に対する強い憤りが感じられる。
イ この小説は、前半では「私」の心情が細やかに説明されているが、後半になるにしたがって「私」の心情の説明が少なくなっている。それは、「私」の心痛が徐々に強まり、切羽詰まった精神状態にあることを表現している。
ウ 「私」の発言からは、どんなに目立たない脇役でもドラマを構成する存在なのだ、という主張が読み取れる。それは表向きは工場長に対しての発言だが、言い返せなかったチーフプロデューサーに対しての発言でもある。
エ 工場の上司が「私」をクビにしなかったのは、「私」の仕事ぶりを評価しているからだが、「私」は自分の働きが評価されていないと訴えている。このすれ違いは、「私」の自己評価の低さ故に生じているといえる。

四

次の文章を読み、後の問いに答えなさい（設問の都合上、本文を一部省略・変更しています）。

※ 柏木博『「しきり」の文化論』より出題（約二三〇〇字）。著作権の関係により掲載はできません。

（注）※民俗学…民間に伝えられてきた言語・風習・信仰・芸能などを調査し、分類・整理して、民族の文化の伝承を明らかにしようとする学問。日本の民俗学は、明治以後に柳田国男らによって学問として確立された。

問1 〰〰〰〰〰部 a「シントウ」、b「ショ（機能）」、c「ダイク」、d「喪服」のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 — A C に入る語として最も適切なものを次のア～カから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。
ア しかし イ まさに ウ むしろ エ かえって オ なぜなら カ たとえば キ いわゆる

問3 — 部①「小林忠雄は『変身』と名付けている」とあるが、この「変身」を端的に言い換えた表現を本文中から抜き出さなさい。

問4 — 部②「時と場所と場合といった状況の変化を……意識を向けるようになった」とあるが、ここから分かることとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 衣服の着用目的が明確化したことで、TPOに服装を合わせられないことは時代遅れと見なされているということ。
イ 衣服を通して状況を区別することは、TPOという概念が広がる以前からも明確に認識されていたということ。
ウ 衣服の素材やデザインが多様化したことで、状況の変化に加えて人々は個性も重視して服装を選ぶようになってきたということ。
エ 衣服を通して状況の変化を認識することは、新たなコミュニケーション方法として年齢層を問わず広がりを見せているということ。

問5 — 部③「〇〇記念日」とあるが、歌人・俵^{たわら}万智^{まぢ}の代表作として知られる次の短歌にあてはまる語句をカタカナ三字で答えなさい。

「この味がいいね」と君が言ったから7月6日は 記念日

問6 — 部④「神道は、その核心が『祭り』という儀式にあったという説明は説得的だ」とあるが、その理由を説明した以下の文の I II にあてはまる言葉を、文中から I II は四字以内、 II は十五字以内でそれぞれ抜き出しなさい。

神道では I でとり行われる「祭り」という儀式が信仰や伝統を維持し、継承しており、 II と同じ役割を担ってきたと考えられるため。

問7 次の文は、本文の A B のいずれかの箇所から抜き出したものです。脱落した文の入る箇所として最も適切なものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

今日のわたしたちの生活は、ケの中、つまり日常生活の中に「仕事着」以外の多様な「しきり」を持っている

問8 本文の内容として適切ではないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア スポーツウェアなどさまざまな種類の衣服の登場で「ハレ」と「ケ」の境界があいまいになった。
イ 現代社会において、「記念日」は消費を促進するために新しく作り続けられている。
ウ 「ハレ」と「ケ」の区別は、海外では見られず日本文化に根付く特有のものであるといえる。
エ 現代社会では、日常生活の中にハイキングやスポーツ観戦など多様な「ケ」が存在している。